

● がん検診の目的は？ 治療・救命までが がん検診

がん検診の目的は、がんを見つけることだけではありません。検診の対象となる人たち（集団）の死亡率を低下させることが、がん検診の目的です。

いくらがん発見率の高い検診を受けても、治療効果のないがんや、治療する必要のないがんがたくさん見つかるような場合は、死亡率低下の効果はありません。



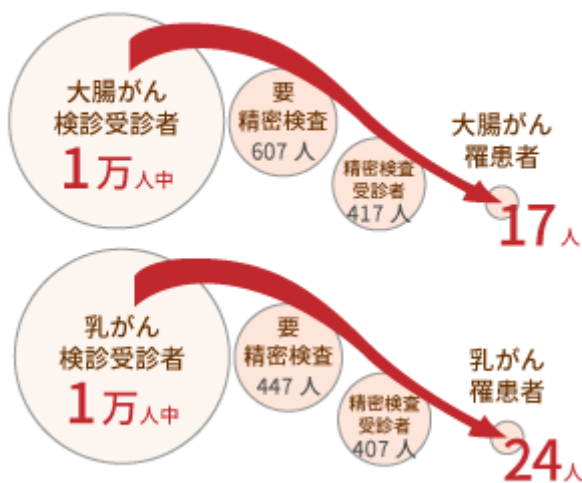
これまでの研究によって、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

早期で見つけれれば、がんは決して怖い病気ではありません。「要精密検査」と判定されたら、自分や周りの人のためにも精密検査を受けるようにしましょう。

● がん検診でがんが見つかる人の割合は？

一次検診で「要精密検査」と判定された場合、「がんではないか」と怖く感じる人もいるかもしれませんが、最終的に「がん」と診断される人はそれほど多くないことも知っておいてください。

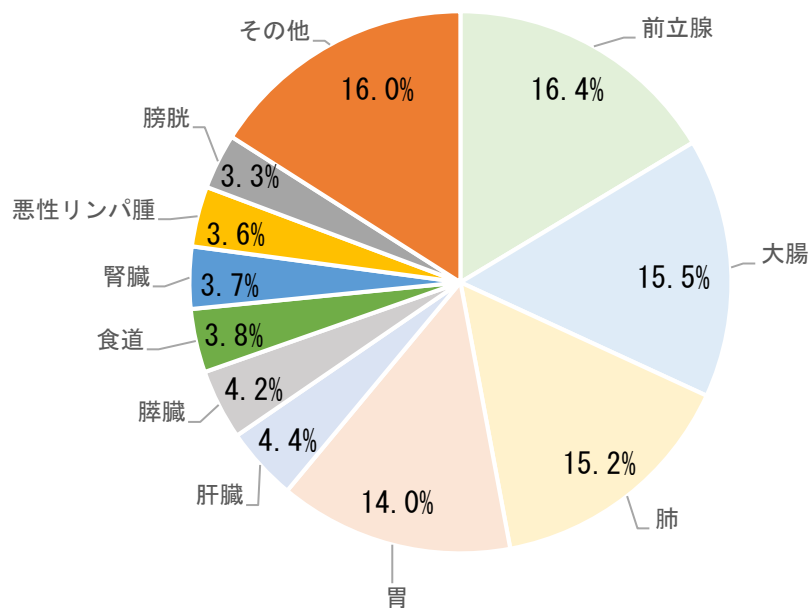
精密検査を受ける必要のある人、
がんが見つかる人の割合



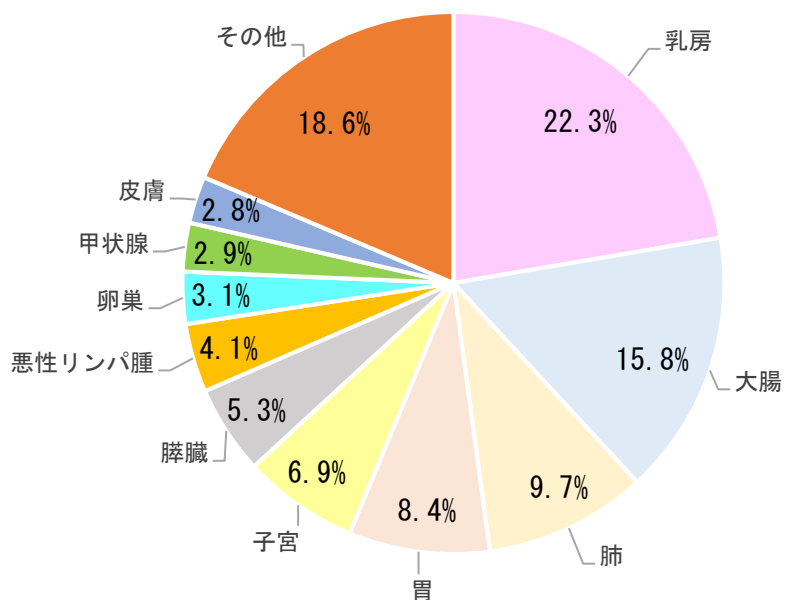
大腸がん検診、乳がん検診をそれぞれ1万人ずつ受診したとすると、大腸がんでは607人、乳がんでは447人が一次検診で「要精密検査」と判定される割合（日本対がん協会2017年度がん検診の実施状況）になります。精密検査を受ける人は、大腸がんが約417人、乳がんが約407人で、それぞれ17人、24人のがんが見つかる計算です。「要精密検査」と判定されても、それがすぐにごんに結びつくわけではないことはおわかりいただけたと思います。しかし、大腸がんでは約30%、乳がんでは約10%の人が精密検査を受けずに済ませてしまいます。この中にも一定の割合でがんが潜んでいます。精密検査は必ず受診することが重要です。

日本対がん協会「がん検診の目的と効果」より引用

部位別がん罹患割合（2020年）男性



部位別がん罹患割合（2020年）女性



厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課
全国がん登録 罹患数・率 報告(2020年)より

大腸がん検診

● 令和4年度検診実績等

・全体実績

受診者	要精検者		精検受診者		発見がん		陽性反応適中度
件数	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	(%)
152,999	9,637	6.3	6,896	71.6	296	0.19	3.1

・病期別大腸がん発見数 (N=296人)

0期		I期		II期		III期		IV期		不明	
142人	48.0%	79人	26.7%	28人	9.5%	31人	10.5%	8人	2.7%	8人	2.7%

大腸がん検診で「要精密検査」判定となり精密検査を受けて、「大腸がん」と診断された296人のうち、221人(74.7%)が「病期0・I期」でした。

大腸がん検診で「要精密検査」判定となったものの精密検査を受けなかった2,741人に、大腸がん検診の陽性反応適中度(3.1%^{※1})を当てはめると、さらに85人^{※2}に「大腸がん」が見つかる可能性があります。

※1 がん発見数/要精検者数 = (296/9,637人) × 100 = 3.1% ※2 2,741人 × 3.1% ÷ 100 = 85人

・判定別精検受診者からの発見がん数

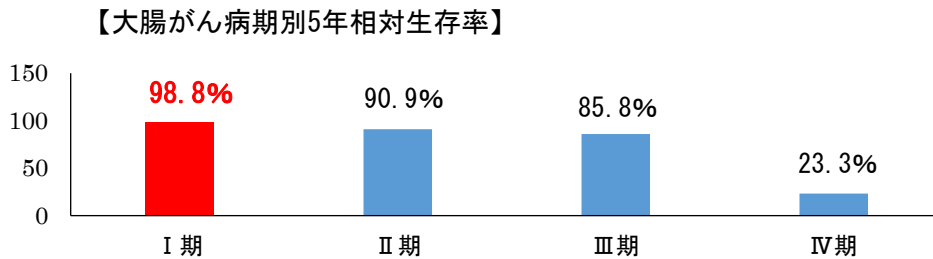
判定区分	要精検者	精検受診者	(%)	発見がん	(%)
いずれかが(+) (1日分)	7,550	5,430	71.9	139	2.6
どちらも(+) (2日分)	2,087	1,466	70.2	157	10.7

大腸がん検診で「どちらも(+)」となり、精密検査を受けた1,466人のうち157人(10.7%)に「大腸がん」が見つかっています。

● 精密検査の重要性

- ・ 大腸がんは、発見が遅れるほど生存率が大きく低下します。

大腸がんはⅠ期で見つければ5年相対生存率は98.8と高値ですが、Ⅳ期では23.3%（Ⅰ期の約1/4）と、Ⅰ期と比べて大きく低下します。



※ 全国がんセンター協議会「2011-2013年の5年相対生存率」

- ・ 精密検査を受けることで「大腸がん以外の疾患」も数多く発見されています。

精密検査を受けた方の約80%に「大腸がん以外の疾患」が見つかりました。

大腸がん	大腸がん 疑い	ポリープ	憩室	痔疾患	潰瘍性 大腸炎	その他の疾患	異常なし
296人 (4.3%)	38人 (0.6%)	3,875人 (56.2%)	696人 (10.1%)	647人 (9.4%)	34人 (0.5%)	189人 (2.7%)	1,121人 (16.3%)

※精密検査を受けた6,896人の内訳

検診の結果が「要精密」となると、不安で何かと心配されると思いますが、がんは早期に見つけて治療することが、その後のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）のためにとっても重要です。がんの早期発見と治療、その他の疾患の治療もふくめ、要精密検査と判定されたら、必ず精密検査を受けましょう。